

輸出品目別レポート（ながいも）

■品目説明

やまいもはヤマノイモ科に属するイモ類の総称であり、ながいもはこのヤマノイモ科に属する。やまいもとながいもは栄養価に大きな違いはないが、粘りの強さと味わいに違いがある。やまいもは粘りが強く甘みがあるのに対し、ながいもは水分が多く、粘り気が少ない淡泊な味わいが特徴である。

台湾や米国（特に西海岸）の華人社会において、ながいもが薬膳料理の具材やジュースとして人気がある。消化吸収に優れ、滋養強壮に効果があるとされる機能性食材として用いられている。一方で、とろろ料理など日本料理としての食べ方はあまり浸透していない。このため、食感の良さや品質の高さなどで日本産をPRし、全米や華僑の多いシンガポールおよびその周辺国への販売拡大の可能性がある。

農林水産省「[農林水産統計 作物統計調査](#)」によると、2023年の日本国内におけるながいもの作付面積は4,780haで前年比4%減、10aあたり収量は3,070kgで、前年比10%増となった。収穫量は14万6,600トン、出荷量は12万6,200トンで、ともに前年比5%増となった。主な産地は北海道（8万600トン）、青森県（4万9,000トン）、長野県（6,340トン）、岩手県（2,860トン）などとなっている。

■貿易概況

2023年の日本のながいもの輸出動向をみると、金額は前年比17.7%増の2,410万ドル、数量は同0.2%減の7,129トンであった。主要輸出国・地域の動向をみると、1位の台湾は、金額が前年比19.3%増の1,227万ドル、数量が同1.7%増の3,804トン、シェアでは金額ベースで50.9%、数量ベースで53.3%と半数を超えている。2位は米国で、金額が同27.5%増の817万ドル、数量は同7.3%増の2,325トンであった。3位はシンガポールで、金額が同3.9%増の219万ドル、数量は同10.9%減の621トンであった。

なお、農林水産省の[輸出拡大実行戦略](#)（2025年5月）によると、ながいもは輸出重点品目のひとつとして、たまねぎなどとともに、2030年までに全体240億円（台湾55億円、米国（グアムを含む）49億円、香港43億円など）を目標としている。

国別のニーズ・規制に対応するための課題・方策として「現在主力であるながいもの安定供給を基本としつつ、贈答用以外の需要に対応するため、日系の商流だけでなく現地系商流への新規アプローチを強化し、需要開拓を推進」「富裕層向けを基本としながらも、買い求めやすい価格帯の訴求を推進」「新たな販路開拓に向けて、市場調査の実施や輸出先国・地域の規制への対応などを推進」が挙げられている。

▼表1：日本のながいも輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
台湾	10,298,810	3,481	10,294,779	3,742	12,279,607	3,804	19.3	1.7
米国	6,960,505	2,146	6,411,914	2,166	8,176,744	2,325	27.5	7.3
シンガポール	2,154,803	703	2,110,394	697	2,192,303	621	3.9	△ 10.9
香港	1,147,686	325	1,396,034	463	1,248,305	333	△ 10.6	△ 28.1
マレーシア	59,445	14	35,053	10	78,903	20	125.1	100.0
全世界	21,071,910	6,773	20,486,258	7,144	24,106,804	7,129	17.7	△ 0.2

注：対象はHSコード 0714.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

■海外事情

●台湾

台湾の2023年におけるながいも輸入は、金額ベースでは前年比6.0%増の1,371万ドル、数量ベースでは1.2%減の4,329トンとなった。輸入相手国の動向みると、1位が日本であり、金額ベースでは前年比3.8%増の1,158万ドル（シェア84.4%）、数量ベースでは、同3.1%減の3,797トン（同87.7%）となった。2位は中国であり、金額ベースでは前年比22.8%増の194万ドル、数量ベースでは同21.1%増の459トンとなった。

▼表2：台湾のながいも輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	10,605,817	3,264	11,160,125	3,919	11,585,617	3,797	3.8	△ 3.1
中国	1,722,520	505	1,580,132	379	1,940,403	459	22.8	21.1
ベトナム	107,114	44	200,676	83	191,515	74	△ 4.6	△ 10.8
全世界	12,435,451	3,813	12,940,933	4,381	13,717,535	4,329	6.0	△ 1.2

注：対象はHSコード 0714.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

ながいもは台湾でも生産されており、「山薬（シャンヤオ）」といわれるほど滋養強壮に効果がある健康食品として珍重され、薬膳料理のスープや、チキンスープなどの具材として消費されている。日本産のながいもは、品種改良された断面がきめ細かく白い。塊茎は長く棒状に育つのが特徴で、特に北海道産や青森県産のものが台湾では根強い人気がある。台湾における健康志向や薬膳人気が高まっており、日本産ながいも（生鮮、冷蔵）に対する一定のニーズは今後も継続されるとみられる。

●米国

米国の2023年におけるながいもの輸入は、金額ベースでは前年比27.8%増の1億153万ドル、数量ベースでは同8.1%増の5万8,092トンであった。主要輸入相手国・地域別に

みると、1位のジャマイカが前年比37.4%増の4,193万ドル、数量ベースで24.5%増の1万4,645トン、2位のガーナが1,604万ドル（1.3%減）、日本は6位で699万ドル（24.7%増）であった。

▼表3：米国のながいも輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
ジャマイカ	30,668,498	11,424	30,515,952	11,765	41,939,066	14,645	37.4	24.5
ガーナ	15,133,907	12,783	16,251,884	13,133	16,040,796	14,454	△ 1.3	10.1
コスタリカ	8,076,597	7,422	10,833,469	8,115	13,787,580	6,794	27.3	△ 16.3
コロンビア	6,355,436	10,962	6,066,180	8,273	9,957,199	9,309	64.1	12.5
ブラジル	5,990,257	6,236	5,870,739	5,885	8,455,703	6,336	44.0	7.7
日本 (5位)	5,629,602	2,019	5,612,187	2,216	6,996,106	2,353	24.7	6.2
全世界	75,440,548	54,948	79,462,736	53,748	101,536,101	58,092	27.8	8.1

注：対象はHSコード 0714.30

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

米国では、ながいもは“Chinese Yam”や“Mountain Yam”などと呼ばれ、ヤムイモに分類される。米国で一般的にヤムというとはスイートポテトを指すことが多いが、実際は全く違う作物に分類される。中南米やアフリカ諸国から輸入されるのは主にヤムイモで、表3中「ながいも」を輸出しているのは日本だけだと推測される。

青森県農林水産物輸出促進協議会「[米国 ながいも市場調査](#)」(2024年2月)では以下のようまとめている。

- ・ロサンゼルス周辺では、ながいもは日系、中華系、韓国系スーパーで販売しており、現地系スーパーでは販売していない。
- ・サイズは大きいものが好まれる。西海岸では値段より品質重視のため日本産が優勢である一方、東海岸では値段重視のため中国産がポピュラー。
- ・中国産ながいもは、主に中華系の消費者が購入しており、生では食べず、スープなど加熱調理で消費される。日本人や台湾人以外には、ながいもが生食できることを知られていない。

さらなる知名度の向上に向けては、近年の健康志向や日本食ブームに合わせて、レストランでの新メニューの提案や、高級オーガニック系スーパー等での「健康的な日本食材」として売り込んでいくなど、取り組み次第ではさらに輸出を拡大できる余地はある。

・[海外有望市場商流調査\(米国\)\(2022年3月\) | 調査レポート - 国・地域別に見る - ジェトロ](#)

・[米ニューヨークで北海道産水産物のPRイベント開催、道産ホタテなどの魅力発信\(日本、米国\) | ビジネス短信 - ジェトロの海外ニュース - ジェトロ](#) (2024年8月)

●その他

- ・香港 PF カントリーレポート「[香港への農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート（青果物）](#)」（2024年11月）
- ・農畜産業振興機構（alic）「[今月の野菜：やまのいも](#)」（2025年2月）
- ・GFP グローバル産地計画「[長芋の海外輸出拡大への取組](#)」（2020年2月）

ジェトロ「[現地市場価格調査](#)」では、イモ類の主要都市における市場価格をまとめている。

青果物の輸入規制、輸入手続きに関して、[ジェトロのポータル](#)にて、香港、台湾、韓国、中国、マカオ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、インド、米国、カナダ、EU、英国、ニュージーランドをまとめている。

本レポートに関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006
東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル
TEL：03-3582-5186

【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。